

江原総領事のテキルダー・ナームック・ケマル大学訪問 (2016年4月12日)

4月12日、江原総領事は、イスタンブール県の西隣県であるテキルダー県に所在するナームック・ケマル大学を訪問しました。ナームック・ケマル大学は約2万5千人が学ぶ総合大学で、選択科目として日本語教育が行われていますが、来教育年度から文理学部に日本語学科が新設される予定です。新設されれば、トルコで4番目の日本語を専門とする学科専攻を有する大学となります。

今回の訪問では、江原総領事が日本トルコ関係に関する講演を行い、シムシェッキ学長のご出席の下、約180名の学生が聴講しました。

講演では、江原総領事より、明治維新とトルコ共和国誕生の歴史的類似性、1890年のエルトゥールル号事件、トルコ建国の父と呼ばれているアタテュルクが日本について深く研究していたこと、山田寅次郎、大谷光端のトルコとの深い関係、1985年のイラン・イラク戦争の際のトルコ航空によるテヘラン在留邦人救出、両国における震災時の協力、そしてマルマライ・プロジェクトや第2大橋など現代の協力にいたるまで日本とトルコが助け、助けられてきた歴史とその上に立つ友好関係であることなど幅広く紹介しました。セミナーに参加した学生たちは、江原総領事が説明する数々の関係エピソードに熱心に聞き入っていました。



挨拶するシムシェッキ学長



講演する江原総領事



講演に熱心に聞き入る学生たち

引き続き、文部科学省国費留学説明会及び映画「海難1890」の上映会が行われました。「海難1890」の上映では、歴史を超えた両国の絆の深さに、感動する学生たちの声が聞かれました。

今後のトルコでの日本語教育の裾野がより広がり、日本に対する理解がより深まることを期待しています。